

<< Co ee break Talk.11 ~ National Anthems ~ >>

支部長 今林 光秀

早いもので残暑厳しい前回 Talk.10 からあっという間に時が経ち、2023 年も残りわずかになるうとしています。JSCA 九州支部会員の皆様にはどのような 1 年でしたでしょうか。5 月に新型コロナ感染症が 5 類となり、徐々に人々からコロナ禍での異常な世の中の記憶が薄れつつあるようですが、あの時の自然への畏怖の念は忘れずに謙虚にいたいと思います。

なぜか今年は世界の国歌「National Anthems」をよく耳にした 1 年だった気がします。昨年 11 月のサッカー World Cup を引きずっているのかも知れませんが、3 月 World Baseball Classic、7 月サッカー女子 World Cup と世界水泳、9 月ラグビー World Cup など、そして来年のパリオリンピックをかけた各競技の国際大会が数多く行われ、そこで国歌が流れる。君が代だけでなく、世界の国歌を聞くとその国に少し触れたような気がして私は好きです。大好きなサッカーの国際試合で数万人の観衆が胸に手を当て国歌を歌う姿は身震いします。

私が初めて国歌に目覚めたのは、忘れもしない 1988 年 3 月の London Royal Albert Hall。

ここで公演されていた“Red Army Ensemble”を、大学院 1 年の春休み英国一人旅で鑑賞しました。当時は東西冷戦雪解けで、ソ連軍の楽団・劇団がロンドンで公演する今では考えられない催しです。冒頭にソ連国歌の演奏で、あの有名なメロディーが流れました。素敵だったのは、観客の皆さんが帽子を脱ぎ直立不動。さすが、英国紳士です。



ご存じかと思いますが、今のロシア国歌も同じ曲です。 [Royal Albert Hall (from Wikipedia)] 次にイギリス国歌“God Save the Queen”演奏。満員の英国人観客が胸に手を当て大合唱し、円形のホール内に歌声が響き渡る。世界は凄い！この時の感動は今でも忘れられません。

国歌を聞くとなんとなくそのお国柄が偲ばれるような気がするの面白いです。いかにも大国自信満々と言わんばかりの米国国歌やフランス国歌。分裂や併合を繰り返してきた歴史から祖国の勝利への決意を歌ったイタリア国歌（暗くならずノリよい曲なのがイタリアらしい）。ゲルマン魂の誇りと祖国の統一を高らかに歌い上げたようなドイツ国歌（あのハイドンが作曲）。アルプスの山々を思わせるような雄大で落ち着いたスイス国歌。なぜか行進曲に聞こえてしまうのは私だけかトルコ国歌。まだまだ沢山あります。

2022 年 2 月のロシアによる軍事侵攻以降、ニュース等で聞こえてくるウクライナ国歌。ロシア革命の 1917 年に独立宣言した時の国歌で、ソ連併合を経てソ連から独立後 1992 年国歌として復活、国歌名「ウクライナは滅びず」。タイトルからも、そのメロディーや歌詞からも、これまでのウクライナの厳しい歴史と今も続きこの先も見えてこない戦争の悲惨さが伝わってくるようで、胸が締め付けられる感じがします。一日も早い平和を祈ります。

それでは、今年も 1 年間どうもありがとうございました。来年も良い 1 年としましょう。